

## 令和4年度 第3回学校運営協議会

1. 日 時 令和5年2月17日(金) 15時00分～16時30分
2. 場 所 本校会議室
3. 出席者 委員、校長、教頭、首席、指導教諭、進路指導主事、総務企画部長、  
大阪府教育センター（カリキュラム開発部部長、高等学校教育推進室長、  
高等学校教育推進室主任指導主事）

### 4. 議 題

- (1) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価について
- (2) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価について
- (3) 学校教育自己診断の結果、分析について
- (4) 授業研究の総括と今後に向けて
- (5) 探究ナビ、探究図書館について
- (6) 進路状況について
- (7) 参考資料 R5 学校行事予定表（案）

### 5. 感想・質問事項等（意見の概要）

#### 【学校経営計画及び学校評価について】

令和4年度は中期的目標を大きく変更した。令和5年度は、めざす学校像・中期的目標ともに大きな変更はなし。中期的目標としては、引き続き3つの柱（1. 豊かでたくましい人間性のはぐくみ、2. 確かな学力の育成と授業改善、3. 「チーム教セン」による新しい課題への挑戦）を掲げる。項目3のうち、校務の効率化と働き方改革の推進する中で、具体的には、職員会議のペーパーレス化、Google フォームの活用などを行っている。今後の取り組みとしては、合同部活動の実施、全校一斉定時退庁日の設定、欠席連絡の効率化（電話と Google フォームの活用）などを考えている。

#### 【学校教育自己診断の結果、分析について】

生徒向けのアンケート結果では、多くの項目で肯定的回答が低下したもののその下げ幅はいずれもわずかなものであり、コロナ禍としては工夫して教育活動が行うことができたものと考えられる。また、保護者向けのアンケート結果では、多くの項目で肯定的回答が増加した。特に PTA 活動や授業参観・学校行事への参加に関する肯定的回答が大きく増加しており、コロナ制約の緩和に伴いさまざまな行事を実施した成果が見られた。教職員向けのアンケート結果においても、多くの項目で肯定的回答が増加しており、授業研究委員会の取り組みや教育センターとの連携の成果が結果に表れている。次年度に向けては、今回の教職員の肯定的な回答結果をいかに生徒や保護者に結び付けられるかが課題である。また、質問項目そのものが古く感じられることも否めないため、今後10年を見据えたうえで時代に合わせたものに変更していく必要性もあると考えている。

### <質疑応答・意見>

・学校行事や授業参観は平日に行っているのか。また、保護者の参加が昨年度より増加しているのはなぜか。

⇒体育大会は平日、文化祭、授業参観は土曜日に行っている。体育大会は、入場制限を緩和したことや昨年度より生徒主体の形式にしたこと等により、平日でも多くの保護者が来場したと認識している。

・教員向けアンケートの項目「近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、地元とのつながりを大切にしたり取り組みをすすめている」の肯定的回答が大幅に増加しているのはなぜか。

⇒一昨年前に定員割れをした経験から、後半部分にあたる地元とのつながりを大切にしようとする教員が増加したためではないかと思う。

・学校行事に関するアンケート項目の肯定的回答が生徒・教職員ともに低下しているのはなぜか。

⇒わずかに低下してはいるものの今年度も十分高い値である。今後さらに良いものにすることができるという向上心の表れではないかと思う。

・質問項目について、目的と手段が一致した問い方に変更すべき。

⇒その方向で検討していきます。

### 【授業研究の総括と今後に向けて】

今年度は生徒の主体的な学びを育むことを大きな目標とし、年3回の校内研修、全教員による授業デザインシートの作成などに取り組んだ。今年度から実施された「観点別学習状況の評価」については、実践例の蓄積・データ化、実践の報告会を通じて教員の理解と実践力を深めることに取り組んだ。しかし、「主体的な学び」の評価方法に関する疑問やパフォーマンス課題の実践例の蓄積不足、ICT機器の効果的な活用法など、さまざまな課題も残されている。また、本校では授業研究に関して、昨年度よりカリキュラム・マネジメントを直接行う組織とカリキュラム・マネジメントを管理する組織に分けて取り組みを行った。その結果、各教員が授業実践をしやすい環境が整備され、研究の蓄積結果が可視化されるようになった。さらに、研究フォーラム、さまざまな機関や企業との連携を通して、本校の実践例について研究発表を行った。

### 【探究ナビ、探究図書館について】

教育センター大ホールにて、学年ごとに各クラスの代表班が探究ナビ全体発表を行った。1年：コミュニケーション&演劇（2月10日）、2年：クエストエデュケーション（2月7日）、3年：課題研究（12月22日）。探究図書館は今年3月末に完成予定。令和6年度より探究ナビⅢが2単位から3単位になることに伴い、探究ナビ2.0として、これまでのファシリテーターやアイスブレイカーとしての教員の役割を生徒の役割として充てることなども視野に入れている。

### <質疑応答・意見>

・以前よりもバージョンアップしているように感じた。

・3年間かけて社会に必要な力が確実に育成されるようしっかり組み立てられている。

・演劇から学んだことなどを自分の言葉で表現する取り組みは何か行っているのか。

⇒ICEモデルを使用した振り返りにより言語化を図っている。（演劇の経験が日常に活かされることはあ

るかどうかについて考える等)

### 【進路状況について】

今年度、進路指導部としては、各進学先の合格者数を前年比で上回ることを、4年制大学・短期大学の進学者数150名を目標として掲げた。今年度は大学入学共通テストの受験者数が前年度より10名増加しており、最後まで進路実現に向けて頑張ろうとする「あくなき探究心」は評価に値するものと考えている。総合型選抜における合格率が高くなっている背景には、3年間の探究ナビの授業を通して、自分の考えを他者に発信したり、プレゼンテーションの能力が養われたりしたことなどが挙げられるのではないかと考えている。また、今年度短期大学の進学者数が減少した原因としては、保育士を志望するにあたり、小学校教員免許を取得していることが望ましいとされるようになったことで、従来短期大学へと進学していた保育士志望者が4年制大学へと流れたためではないかと分析している。

### 6. 委員より

- ・コロナ禍においても、さまざまな創意工夫を凝らして教育活動を行っていかうとする姿勢が感じられた。探究図書館の今後に期待したい。
- ・本校の取り組みに関する広報活動にますます力を入れてほしい。
- ・学校として毎年着実に進化している。コロナ禍は逆に新しいことをするチャンスでもあるので、今後もさまざまなことに挑戦してほしい。